



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/10/21

中東問題真相はこうだ！
イスラエル悪玉論の原点を論駁する

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。このシリーズでは、にわかには世界中の注目を浴びている、中東問題の解説シリーズをお届けしています。

イスラム原理主義テロ組織のハマスが10月7日、イスラエルに一方的なテロ攻撃を仕掛け、その対応に今世界中が注目しています。

この動画を発信するようになって、実に様々な方からコメントを頂くようになりました。中にはスーパーサクスでお金を入れてくださる方もいて、ムチャクチャ励まされます。ありがとうございます。

コメントの中には非常に真摯な、「あなたの動画にすぐに『うん』と言えない…というのは、こういう疑問が引っかかっているのだから、どうにもこうにも納得できない」という素朴な疑問、正確に物事を知りたいと願う方々の質問があります。その質問が非常に素晴らしいので、その方個人にお答えするだけでなく、皆さんに共有したらいいんじゃないかと考えたので、今日はその一つを取り上げ、中東問題の理解増進に役立てていただければと思います。

私はこのシリーズで、「パレスチナ人が国を持つことができないのは、イスラエルが邪魔しているのではない。国を得るチャンスが何回もあったのに、全部自ら拒否して、戦争やテロに訴えてしまった。その結果、より酷い状態になってしまった」ということをお話ししているのですが、それに対するコメントです。

「そもそも、パレスチナ人の人口がユダヤ人の人口をはるかに上回っているのに、ユダヤ人に多くの土地を与えた国連がおかしいではありませんか。」
「(私のYouTubeに対して)今回もかなり難しいです。エジプトとヨルダンがパレスチナ人を追い出したということですが、そもそも第一次中東戦争って、国連のパレスチナ分割案がアラブ人側に不利だったことに腹を立てたアラブ連盟が、反発して起こしたのではないのでしょうか。」
同じような質問が他の表現で多々ありましたので、お答えしたいと思いました。

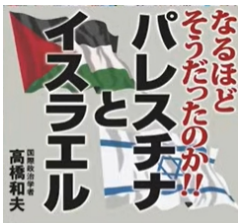
これらの質問を受けて、私ね、「あ、これか!」と思いました。
「高原が言っていることは、イスラエルに対する一方的な思い入れだけで、どうもおかしいんじゃないか」というご意見もあるのですが、皆さん、どこでつまづいているのかというと、結局は原点のここですよ。

「イスラエル建国のスタートラインから、イスラエルは不当に優遇され、パレスチナのアラブ人は不当に冷遇されたので、やむにやまれずイスラエルを攻撃して来た。」今回のテロ戦争の解釈の原点はここにあるんです。

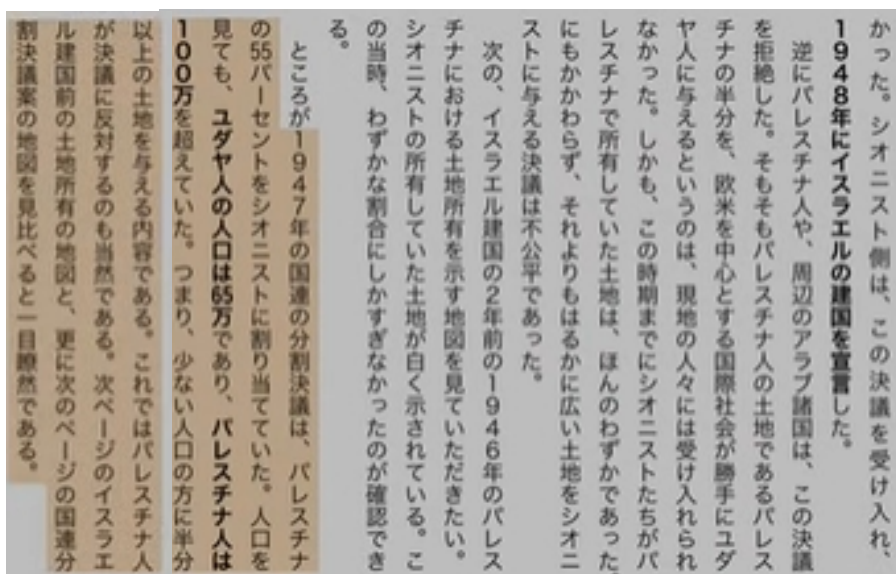
つまり、「テロは悪い。戦争も悪い。しかし、それをせすにおれないほどまでに追い詰めたのは、国際社会やイスラエルでしょ。」
なので、この部分を少し論駁させていただきたいのです。

「少数派のユダヤ人が多数派のアラブ人よりもたくさんの土地を割り当てられ、それでアラブ人たちが怒った」という理解の仕方ですが、どなたから聞かれました？何を讀まれました？どなたがそれを教えてくださったんですか？
ちょっと検索したら、すぐ分かりました。

日本のパレスチナ問題の第一人者と言われている高橋和夫（たかはし かずお）さん。今、あちこちのテレビ局の中東問題の特集番組に引っ張りだこ。彼の姿を見ないことはないくらい、色んなところでテレビ出演している方ですね。そして、飯山陽（いいやま あかり）さんにディスられている方ですねえ。高橋和夫さんがそのように言っている、ということがよく分かりました。



この方が 2005 年に、初心者向けにパレスチナ問題の入門書を書いているんです。『なるほどそうだったのか!! パレスチナとイスラエル』。“国際政治学者 高橋和夫”の肩書きで。幻冬舎から出ていて、私もこの本を持っています。紙も電子本も持っていますが、今日は電子本で少し紹介します。



オレンジ色を付けている箇所を読みます。

『ところが 1947 年の国連の分割決議は、パレスチナの 55 パーセントをシオニスト（ユダヤ人側のことです）に割り当てていた。人口を見ても、ユダヤ人の人口は 65 万であり、パレスチナ人は 100 万を超えていた。つまり、少ない人口の方に半分以上の土地を与える内容である。これではパレスチナ人が決議に反対するのも当然である。次ページのイスラエル建国前の土地所有の地図と、更に次のページの国連分割決議案の地図を見比べると一目瞭然である。』

パパンパン！と出て来るんですけど。間違いです。大間違いです。

説明します。まず地図から見ましょう。



“イスラエル建国前の1946年のパレスチナ” という地図です。紫色がパレスチナの支配地域、白いまだら模様がイスラエルの支配地域と書いてあります。

あの本文（* オレンジ色の前の部分）によると、『ユダヤ人の所有はわずかであった。』国連のデータでは8.6%です。それなのに55%を割り当てられるなんて不当だ！この地図だけ見ていたらそう思いますよ。無理もないですよ。白い所はユダヤ人の所有です。お金払って買ったんです。

では紫の部分、残りの91.4%はアラブ人の所有だったのかということですが、違うんですね。

エルサレム(市内)	28.6	60.1	210.1	ベイサン	31.3					
				ナザレ(市外)	0.3					
合計	477.7	673.4	800.5	1211.0	167.6					
					179.8					
					145.5					
* ユダヤ人口集中地(1947年の国連分譲決議に基づく地域とエルサレム)におけるユダヤ人口の人口集中度。										
イスラエル・1948年										
(人口単位:千人)										
西・パレスチナの土地所有比率	イスラエルに含まれた地域のアラブ人口				*アラブ圏のアラブ人口					
ユダヤ人所有地	8.6%	地域	A	B	C	D	E	A~E	1912	1350人
アラブ人所有地	3.3								1922	856
アラブ所有の放棄地	16.9	1947年現在数	483.0	56.8	36.8	170.3	746.9		1931	621
公有地	71.2	1948年残留数	140.2	19.8	—	—	160.0		1944	100
		難民	342.8	37.0	36.8	170.3	586.9		1947	—

これは国連の資料です。下の方を見てください。“イスラエル・1948”。戦争があった年の土地所有について、戦争は1948年5月ですが、その戦争が起こるまでの間に、ユダヤ人とパレスチナ人（アラブ人）がどれくらいの比率で土地を持っていたのか。（*左欄）

ユダヤ人所有地は8.6%。アラブ人は3.3%なんですね。アラブ所有の放棄地（持ち主が分からない状態）が16.9%。ほとんど7割以上、71.2%は公有地。パレスチナ人が所有してたんじゃないんです。

西パレスチナ、今パレスチナと言われて思い浮かべる場所は、正式には西パレスチナですが、ここの7割以上はイギリスに委ねられていた委任統治領だったんです。「アラブ人がほとんど持っていたのに、国連がそれをごっそり奪い取ってイスラエルに割り当てた。」そんな誤解を生むような地図が先ほどの地図なんです。

彼の本に『ユダヤ人の人口は65万であり、パレスチナ人は100万を超えていた。つまり、少ない人口の方に半分以上の土地を与える内容である。』怒って当然や！という風を書いてあったんですが、国連の公式データによると、建国前のパレスチナのユダヤ人人口は53.8千人。アラブ人人口は39.7千人。つまり、この地域のユダヤ人の人口は、パレスチナ全体の人口の73%を占めていたんですね。

そして、ユダヤ人がたくさん住んでいる所にユダヤ人の土地を割り当て、アラブ人が多い所にアラブ人の国を造るように割り当てたんですが、ユダヤ人の方が 73% で多いのにも拘わらず、イスラエルは 55% をあてがわれた。

しかも、あてがわれた地はネゲブ砂漠がほとんどなんです。ネゲブ砂漠って、何にも無いんですよ。雨降らないんですよ。雨季の時に集中的にバツと降るだけで、後はもう不毛の土地なんです。イスラエルはそれを受け入れたんです。

ユダヤ人人口は 53.8 千人。アラブ人人口は 39.7 千人。ユダヤ人のほうが 73% で人口が多い。これが国連が勘定した公式データなのに、なぜ高橋さんの本の中では、それが逆転しているんでしょう。なぜ『ユダヤ人の人口は 65 万であり、パレスチナ（アラブ）人は 100 万を超えていた』となっているんでしょう。

実はこれは、パレスチナの外にいるパレスチナ人の数を加算しているからです。ハッキリ言うと、ヨルダンにいるパレスチナ人の人口を足したんです。ヨルダンにいるパレスチナ人は、ヨルダン内で住民として生活しています。その人たちの数も入れたんです。

今 国連分割決議で問題になっているのは、西パレスチナ区域に住んでいる人たちの土地紛争に決着を着けるための分割決議案ですからね。そこに住んでない人の数を入れたらダメですよ。

もしその論理がオーケーなら、ホロコーストの後、世界中に 1300 万人以上のユダヤ人が住んでいますが、パレスチナのユダヤ人の人口を勘定する時、そのユダヤ人 1300 万人を、ここの人口として加算していいですか。そんなナンセンスなことはアウトですよ。でも、それをやっているのが 100 万以上という数字なんです。

なぜ、そのようになさったのか。事実をご存じないのか。でも、それは考えにくい。なぜなら、中東問題の専門家で、出ているデータは国連の公式データなんです。もしかしたら、ご存じなかったのかもしれませんが。専門家でも、知らないことってたくさんありますよ。なので、もしかしたら、見落としたのかもしれませんが。でも、「それはおかしいんじゃないか」という指摘を受けてきたはず。しかし、撤回することなく 2005 年出版の本に書いている。なぜ？ 他人（ひと）のことですから、私には分かりません。が、間違いです。

2 つ目の地図は “1947 年の国連分割決議案”。紫がパレスチナ人に割り当てられた所で、ヨルダン川西岸とガザがくっついている。

イスラエルのほうは分断されていて、北と南に分かれています。北部は湿地帯で、マラリアと風土病でどうにもならなかったところ。です。



それを、イスラエルの開拓農民たちがユーカリを植えて開墾して行ったんですね。

南は先ほども言ったとおりネゲブ砂漠です。何にも無い。そして、国家が分断されるような形ですよ。

これを見ると、明らかにアラブ側に良い土地が割り与えられています。人口的にも、比率的にはるかに有利です。

そして、彼らは既に出来上がっている町に住むことができているわけです。

イスラエル側が不利。にも拘わらず、イスラエルはこれを呑んだんですよ。アラブとパレスチナの代表はこれを蹴ったんです。そして戦争が始まった。それが第一次中東戦争なんですね。



ここで、ドキドキしながら、1冊の本を紹介したいと思います。『ユダヤ人は有史以来—パレスチナ紛争の根源』。

なんで紹介するのにドキドキするかというと、5-6年前にこの本を紹介したんですが、古本屋で大体300-400円で売られてたのが、紹介してYouTube見た方が古本市場で買い求めて、一気に3万円まで上がったんです。で、長らくずっと、どこにも出回ってない。元々絶版ですからね。

サイマル出版会から出てたけど、倒産したので無いんですよ。だから手に入らない。手に入らないんですが、またチラホラ出てるんです。

この本はね、もう凄い本で、「ユダヤ人は有史以来、パレスチナに住む権利がある」ということを、国連のデータや、イギリスの委任統治領時代の政府のデータや、各国の大使館・領事館が本国と打電してやり取りしたデータなど、シオニスト側の情報じゃなくて、第三国が公式情報として持っているものを集めて書かれたんです。

パレスチナ紛争の根源というのは、実は多くの神話で成り立っていることを、公式データを明らかにすることによって、見事に論駁していった本なんですね。

これは下巻ですが、上巻・下巻、もうめっちゃ分厚い。特に下巻は全部で365ページあるんですが、その内の142ページが公式データの資料集なんです。

この資料が、もうね秀逸。先ほどお見せしたデータもこの本から取ったんですよ。

この本の内容については、いずれ特集を組みたいと思います。

あまりにも良い本なんですね。

それで、なんでドキドキするかというと、また値上がりするんちゃうかと。

値上がりしたら、僕の友人たちが買えないんじゃないかと。

そして何よりも、これ、実は私の動画のネタ本なんですよ。

だから、この本を熟読吟味して理解したら、僕の動画なんか見る価値ないです。

でも、この本は予備知識がかなり要る本なんですね。

なので、ずぶの素人の入門書としては、ちょっとカタイ本です。

しかし、ある程度 世界史に通じていて、ある程度 中東問題の予備知識がある方は、読めば目から鱗のオンパレードになります。

この本は僕のネタなんで、言うの、ちょっとどうしようかなと思ったんです。

だけど、私が言うより、直に資料集に触れていただくほうが、より説得力があると思ったので、中東問題の正確な理解のためにお勧めしたいと思います。

「スタートの時期からパレスチナ人には不当な押し付けがあり、イスラエルは不当に優遇された。その不公平感に我慢ならなくなったアラブ側が、イスラエルに戦争を仕掛けた。」

これは真っ赤なウソです！これが今日の動画の結論です。

詳しくは、この本を読まれたらと思います。

これからも皆さんの質問、今日取り上げることができませんでしたが、入植地の問題とか色んなことで、「ここ誤解されてるなあ。説明したいなあ」ということがありますので、これからまた紹介したいと思います。

それによって正確な中東情勢の理解の一助になれば、これに勝る光栄はありません。

チャンネル登録もお願いします。ではまた、ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

.. 〇〇.. 〇.. 〇〇.. 〇〇.. 〇〇.. 〇〇.. 〇〇.. 〇〇.. 〇〇.. 〇〇.. 〇〇.. 〇〇.. 〇〇.. 〇〇.. 〇〇.. 〇〇..

*引用

・高橋和夫「なるほどそうだったのか!! パレスチナとイスラエル」(幻冬舎,2005)

・ジョン・ピーターズ「ユダヤ人は有史以来—パレスチナ紛争の根源〈下〉」(サイマル出版会,1988)